

昭和十九年度

當直日誌

綾瀬村国民学校



発刊に寄せて

綾瀬市教育研究所所長 川口 正

平成二年度に当教育研究所の「教育史編さん研究会」が発足してから、十年が過ぎました。これまで、地域の教育に係る様々な資料を発掘・翻刻・編集・刊行してきましたが、この一連の取り組みに対して関係者の間から高い評価を受けて参りました。今回は長い間綾瀬小学校の書庫に埋もれていた『昭和十九年度 当直日誌 綾瀬村国民学校』を発掘し翻刻することになりました。今日、戦時中の

当直日誌は、殆どが終戦直後の混乱状態の中で焼却・廃棄されたり行方不明になったりして直接目にすることが出来ない状態です。

しかしこの『当直日誌』だけは、何故か処分・散逸を免れて長い間人目に触れず埋もれていました。この戦時中の教育の様子を探ることの出来る貴重な資料を、できるだけ多くの人々に知ってもらえるように翻刻・編集することが当研究会の使命と考え、翻刻作業に取り組んできました。

今回発刊の『当直日誌』の内容は、二部構成となっていて、前半は翻刻された当直日誌、後半は当時綾瀬小学校に勤務されていた先生方による座談会となっています。当直日誌は業務日誌のようなもので、学校の一年間の出来事が記録されていますので、当時の教育の様子を窺い知ることができます。特に戦況の悪化に伴い、薙刀等

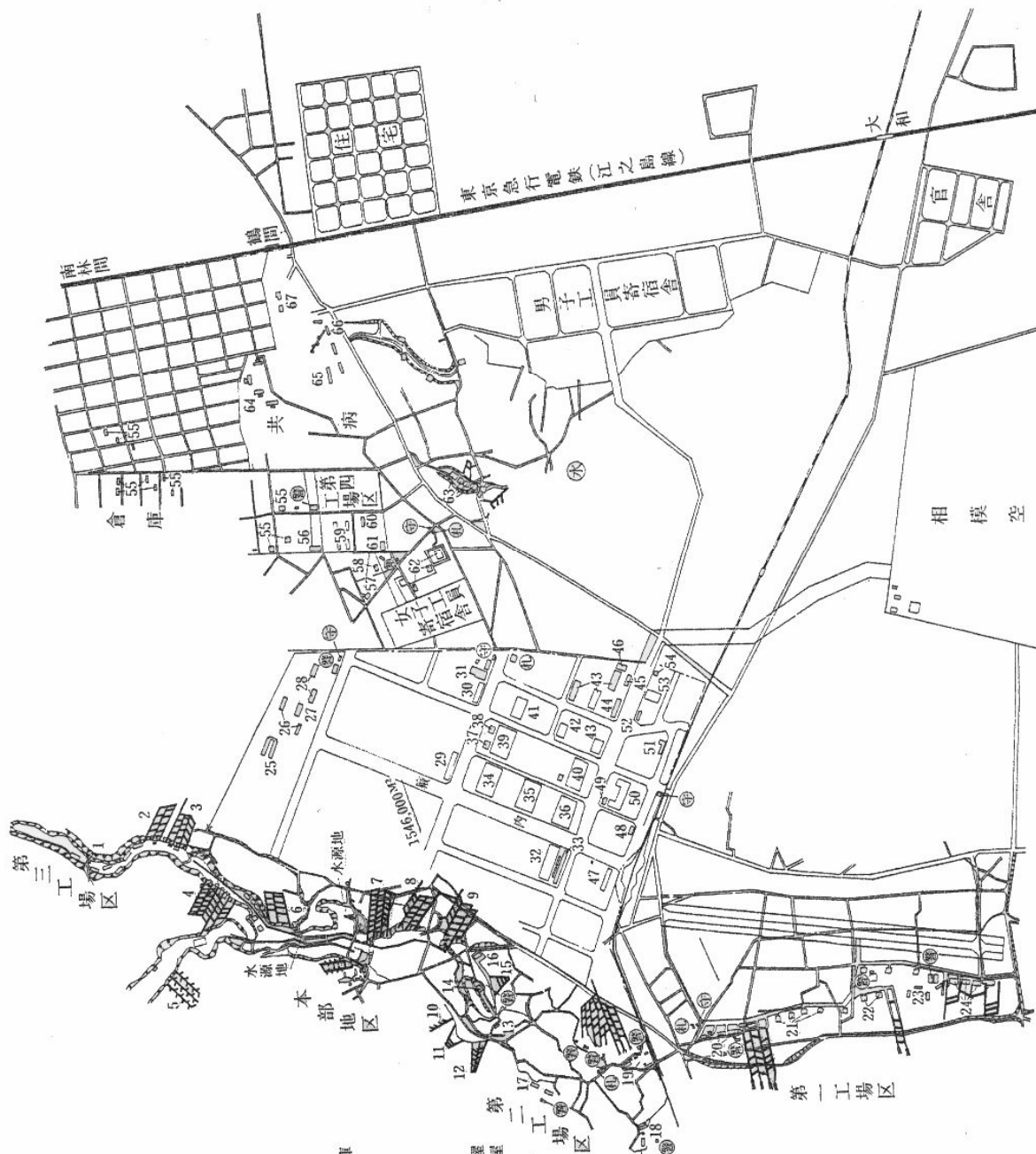
が体育として採り入れられたり、勤労奉仕作業が日常的に行われたり、遠足が廃止になったりして子ども達にとつて厳しい状況であったことが、この日誌を読むことで理解することができます。また座談会では、当時綾瀬小学校に勤務されていた先生方から、具体的に貴重なお話を聞くことができました。当直日誌の行間を埋めることのできる座談会ではなかったかと思います。

この翻刻された『昭和十九年度 当直日誌 綾瀬村国民学校』は教育研究所の財産となるだけでなく、綾瀬市の教育の有意義な資料として、教育現場等で活用されることを期待します。この他にも、整理しておかなければならない教育史関係の資料が多数ありますが、長期的視野に立つて順次整理していく予定となっています。このような地道な作業の積み重ねによって、当教育研究所の教育史編さん事業が「綾瀬市教育史通史編」の発刊に向けて少しずつ前進するものと確信しております。

終わりに、本書の刊行にあたり、座談会に出席していただいた方々と編集と執筆にあたられた各委員の皆様に深甚なる感謝の意を表して発刊の言葉といたします。

高座海軍工廠 疎開施設全般図

- 1 鋼翼工場
- 2 部品工場
- 3 地下倉庫
- 4 部品工場
- 5 部品工場
- 6 総組立作業事務所
- 7 飛行機事務所
- 8 会計事務所
- 9 総務事務所
- 10 電気倉庫
- 11 印刷場
- 12 部品工場
- 13 鍛金場
- 14 調製場
- 15 医務事務所
- 16 第一変電所
- 17 鋼翼工場
- 18 鋼翼工場
- 19 鋼翼工場
- 20 鋼翼工場
- 21 鋼翼工場
- 22 鋼翼工場
- 23 鋼翼工場
- 24 鋼翼工場
- 25 鋼翼工場
- 26 鋼翼工場
- 27 鋼翼工場
- 28 鋼翼工場
- 29 鋼翼工場
- 30 鋼翼工場
- 31 鋼翼工場



- 32 機械工場
- 33 同付属屋
- 34 第六工場
- 35 第四工場
- 36 第三工場
- 37 砂噴場
- 38 アセチレン発生
- 39 第五工場
- 40 第一工場
- 41 木工場
- 42 倉庫
- 43 倉庫
- 44 自動車修理場
- 45 車庫
- 46 自動車燃料庫
- 47 医務事務所
- 48 自動車庫
- 49 湯沸場
- 50 庁舎
- 51 消防車庫
- 52 電気倉庫
- 53 物品検査場
- 54 砲入詰所
- 55 倉庫
- 56 鋼翼工場
- 57 管曲場
- 58 木工場
- 59 鋼翼工場
- 60 鋼翼
- 61 木工場
- 62 治具工場
- 63 総組立工場
- 64 佐達病舎
- 65 看護婦病舎
- 66 診療所
- 67 煮炊場
- ① 警戒員詰所
- ② 守衛詰所
- ③ 札場

四月 一日 土曜日 晴

一、初等科第一学年入学式挙行ス

一、午後 職員常会アリ

一、来校者 新任 佐藤政子氏 片野ミヨ子氏

前田高雄ノ母 新人児童父兄

一、日直中奉安殿ニ異状ヲ認メズ

一、宿直中学校内外ニ異状ヲ認メズ

(以後、右の二項目は省略する)

奉安殿

教育勅語や御真影を納めておくために設けられ、校内で「最も尊いもの」とされた建物。日誌には、連日「奉安殿ニ異常ヲ認メズ」という記載が必ずあります。正門を入った左側の奥にあり、登下校の際、みな最敬礼をしていました。戦後、吉岡芝原の御獄神社の本殿として移築されました。

四月 二日 日曜日 雨

一、青年団体育錬成会準備ノタメ 安藤先生青年団員来校サル

一、渋谷村葬ニ松樹先生出向サル

一、午前五時 翼壮団分列挙行

四月 三日 月曜日 晴

一、青年団体育錬成会行ハル

一、来校者 青年団員及役員 飯田先生 安藤先生 校長先生

大塚 田中、山田、綱島、比留川友諸先生

四月 四日 火曜日 晴

一、転退校及新任訓導ノ紹介式

午後歓迎会行ハル

一、来校者 加藤 小菅氏

四月 五日 水曜日

一、新任佐藤先生紹介式

一、校長先生 地方事務所ニ出向サル

一、来校者 森山先生

四月 六日 木曜日 晴

一、校長先生 地方事務所ニ出向サル

一、新任古谷先生、峰尾先生紹介式

一、早川 故渋谷一孝氏英霊出迎ヘノタメ諸先生出向サル

一、来校者

星野組ノ方二名 大塚氏 比留川好雄氏 綾北分校 土棚分校ノ諸先生

英霊

死者の霊の尊称で、特に戦死者の霊をいいました。太平洋戦争の時は軍人・軍属が亡くなると英霊とされ、遺品や遺骨が帰ってきました。

そのおり村人・教職員・児童などは、最寄りの所まで出迎え、後日小学校の校庭で村葬が執り行われることもありました。

四月 七日 金曜日 曇後雨

一、新任大塚先生紹介式

四月 八日 土曜日 曇後小雨

一、午前七時 各部落神社ニ於テ必勝祈願及清掃ヲナス

一、第一校時 校庭ニ於テ大詔奉戴挙式

一、本日ノ来校者

新任西沢絹恵訓導 出征者 比留川芳夫氏 比留川正司氏

大詔奉戴日

太平洋戦争が開戦された十二月八日にちなんで、毎月八日が大詔奉戴日とされました。学校や官公庁では開戦の詔書奉読式、神社や寺院では必勝祈願をし、家庭では国旗掲揚をすることなどが義務づけられていました。

また、隣組の会議を午後七時四十分に関かせ、その時間にラジオを通して戦争完遂の目的を浸透させました。

四月 九日 日曜日 雨

一、角田先生入営ニツキ 校長 井上 安藤 大塚 鈴木 早川ノ諸先生及ヒ加藤英 加藤松 加藤ヤ先生送ラル

一、文書交付 学校宛一

一、来校者 比留川商店主 傘ノ件ニツキ

校長先生 松樹先生 加藤静先生 榛葉先生 加藤松先生執務

四月 十日 月曜日 曇後晴

一、校長先生 地方事務所へ出張サレル

一、来校者 比留川浅吉氏

四月十一日 火曜日 晴

一、西沢絹恵先生ノ紹介式アリ

四月十二日 水曜日 晴

一、池田重先生 橘川先生 航空隊水田経営ノ件ニツキ出向サレル

一、鈴木徳治郎先生(軍兎講習) 茅ヶ崎第二校へ出張サレル

一、来校者 神山氏

軍兎(ぐんと)

満州事変以降、軍用の毛皮の需要が増加したため、各地でその増産がはかられました。小学生にも毛皮の材料である家兎の飼育が奨励されました。この兎を一般に軍兎といいました。

四月十三日 水曜日 曇後雨

一、三時半ヨリ職員常会アリ

一、来校者 青木吉永氏心召ニツキ挨拶ノタメ

児童父兄一

四月十四日 金曜日 晴

一、来校者 坂田技師

四月十五日 土曜日 晴

一、校長先生 五社神社祈願祭ニ出向サレル

一、午後一時ヨリ種痘(一期 二期共ニ)行ハル

一、来校者 内務省ノ方 紀校医 小菅氏

四月十六日 日曜日 晴

一、昨日二引続キ一期種痘行ハル

一、来校者 紀校医 小管氏 倉林氏 加藤マ先生 峰尾先生(執務ノタメ)

一、左記文書受付

県広報号外 校長先生宛四 青年学校四 職員宛一 図書館一体練主任一 他四

四月十七日 月曜日 晴

一、午後一時半ヨリ男女青年団ノ総会アリ

一、来校者 鈴木村長 元本校訓導田戸マサヤ氏 男女青年団員

四月十八日 火曜日 曇

一、秦野視学来校セラル

午前中授業参観 午後帳簿検閲 三時頃ヨリ講評セラル

一、高二ヨリ初四マデ 身体検査行ハル

一、来校者 山口氏

四月十九日 水曜日 雨

一、午前四時半頃 深谷上二火災アリ 比留川愛祐氏宅

一、大塚訓導 国民学校研究科入学ニツキ簡單ナ送別会ヲナス

自四月二十日 至 七月二十日(鎌師)

一、本校初一、二、三ノ身体検査ヲ行フ

四月二十日 木曜日 晴

一、校長先生 長龍寺ノ式ニ参列サレル

一、大塚訓導 本日ヨリ鎌師研究科(講習)ニ入学セラル

一、第二校時ヨリ第五校時マデ 分校ノ身体検査ヲ行フ

一、弔問使 故新倉正夫氏(午前十時四十分) 故笠間猶正氏(午後一時) 宅ニ

見工 池田重先生八代表ニテ出迎ヘラル

一、午後三時ヨリ四時十分マデ職員常会行ハル

一、橘川先生ノ御尊父 今朝御逝去ニツキ 池田重先生 職員代表ニテ御悔ミ

ニ行カレル

一、来校者 紀校医(青年団身体検査ノタメ) 児童父兄一名

四月二十一日 金曜日 晴

一、昭和塾へ読書指導者協議会ニ学校長出席セラル

一、橘川先生御尊父葬儀ニ池田重 池田武 綱島先生参列サレル

一、高一、初五 吉岡踏固作業ニ奉仕ス

一、来校者 転入児童父兄一 初一児童父兄一

備考 当夜ヨリ学生宿泊ヲ実施ス(講堂)

四月二十二日 土曜日 晴

一、校長先生 昭和塾へ読書指導者協議会ニ出席セラル

一、鈴木徳先生 特別菓子配給ノ件ニツキ地方事務所ニ出向セラル

一、高二 土棚踏固作業ニ奉仕ス

一、早川 故軍属平石寅雄氏ノ英霊出迎ニ諸先生方出席サル

一、午後一時ヨリ第一・二期種痘検診行ハル

一、来校者 紀校医 小管氏

四月二十三日 日曜日 晴

一、午後一時ヨリ第一期種痘検診行ハル

一、来校者 紀医師 小菅氏 大塚先生

四月二十四日 月曜日

一、午後三時ヨリ職員會計アリ

一、一日繰り上ゲテ午後学校ニ居残ル児童ニテ靖国神社臨時大祭遙拝式ヲ行フ

一、午後ヨリ 六男・六男女ノ校医ニヨル身体検査行ハル

一、来校者 紀校医 小菅氏

四月二十五日 火曜日 晴/雨

一、来校者 広田 加藤マ 加藤ヤ訓導執務ノタメ

鹿島訓導ノ父診断書ヲ持チテ

近藤指導員出征挨拶ノタメ

一、靖国神社臨時大祭ニツキ授業八行ハス

四月二十六日 水曜日 晴/雨

一、軍人援護強調週間ニツキ部落勤労奉仕ヲ初五以上 児童及職員一同ニテ午後一時開始ス

一、来校者 深谷巡查

四月二十七日 木曜日 晴

一、来校者 小宮氏 加藤氏

一、三時半ヨリ総務会行ハル

四月二十八日 金曜日 雨

一、来校者 紀校医 第二航空隊高野氏 峰尾助役

一、繊維非常増産協議会 午後一時ヨリ役場ニテ行ハル 学校長出席サル

一、初四・五児童 身体検査ヲ行フ

一、高二男一部及ヒ橘川訓導 天長節奉祝配給菓子パン引取りニ行カレル

一、夜電話借用ノタメ山下一明 神山甚一郎ノ両氏来校

四月二十九日 土曜日 晴

一、天長節拝賀式挙行(午前九時)

一、第三十九回四〇回卒業生同窓会(午後一時)

一、来校者 村長外学務委員(拝賀式参列)

石井先生 田戸先生外数名ノ先生(同窓会)

海軍軍人三名

四月三十日 日曜日 晴

一、来校者 大塚茂先生 早川先生 飯田先生 加藤松先生 加藤英先生

一、左記文書受付

学校長宛ニ 学校宛ニ 青年学校宛ニ 其ノ他

五月 一日 月曜日 晴

一、暗渠排水作業奉仕ニ行く

吉岡 初六男 根恩馬 高一男(七〇)

一、学校長 吉岡祈願祭ニ参列サレル

一、来校者 村長以下数名 村葬準備ノタメ

暗渠排水

湿田に粗朶や藁・管などを埋めて水を抜くこと。比留川や蓼川沿いの上土棚地区や目久尻川沿いの吉岡地区で暗渠排水工事が行われました。

五月 二日 火曜日 晴

- 一、故武藤勝雄兵長、渋谷竹蔵兵長、峰山幸一兵長、小沢俊介上等兵、平石寅雄軍属、渋谷一孝軍属、内田倉蔵軍属、七柱村葬儀執行（校庭ニテ）
- 一、来校者 神奈川県知事代理其ノ他各町村団体長及ビ村民多数
- 一、学校長 午後二時ヨリ幹事会ニ出席サレル（座間校）

五月 三日 水曜日 晴

- 一、午後 本校初一、綾北、吉岡、上土棚分校児童、職員ノ身体検査ヲ行フ
- 一、来校者 紀校医 厚木職業指導所職員二名 分校職員

五月 四日 木曜日 晴

- 一、午後二時ヨリ男子青年体力検査行ハル
- 一、宇留志先生ノ御尊父御逝去ニツキ井上先生職員ヲ代表シテ御悔ミニ行カル
- 一、来校者 紀校医 小菅氏
- 一、地方事務所ヨリ児童・職員数ヲ明日又ハ明後日迄ニ知ラセルヤウ 又中部各校ニ通知スルヤウ電話アリタリ 有馬・大和へハ電話、御所見へハ松樹先生ニ、海老名へハ池田重先生、渋谷へハ広田先生ニ夫々通知ス

五月 五日 金曜日 雨後止ム

- 一、午後二時ヨリ少年団分団旗奉戴式挙行セラル
- 一、午後二時ヨリ宇留志先生御尊父葬儀ニ職員代表ニテ 井上、加藤松、加藤

英 加藤ヤノ諸先生会葬サレル

一、午後四時半ヨリ市川先生退職 大塚 西澤 峰尾 古矢先生新任ノ送迎ノ会開催セラル

- 一、来校者 研究講習中ノ大塚先生 途中転入児童父兄
- 一、午後八時半頃 成城学園高等科生徒交代シテ（百十名）来校 宿舎長挨拶 二事務室へ

五月 六日 土曜日 晴

- 一、第四校時 少年団分団ノ組分ヲナス
- 一、男子青年団体力検査 午後一時ヨリ
- 一、来校者 紀校医 小菅氏

五月 七日 日曜日 晴

- 一、左記文書受付
- 校長先生宛三 青年学校宛一 其ノ他四
- 一、来校者 飯田先生 加藤静先生 榛葉先生 内田フ先生 加藤ヤ先生 組合ノ渋谷氏（榛葉先生ニ面会ノタメ）

五月 八日 月曜日 晴

- 一、大詔奉戴式挙行
- 一、校長先生 御所見校へ出向サル
- 一、午後一時ヨリ報徳協議会行ハル

五月 九日 火曜日 晴

- 一、井上、池田重、安藤先生モトルス通信教育講習員受講ノタメ藤沢高等国民校ニ出向サレル

- 一、池田武、橘川、早川、松樹先生軍事教練ノタメ出向サレル

五月 十日 水曜日 雨

- 一、十時ヨリ校庭ニ於テ軍事教練行ハル

軍事教練

学校における軍事上の教育と訓練のこと。大正期に中等学校以上で正課となり、日中戦争後は、各校に軍人が配属され、厳しい訓練が実施されました。

五月十一日 木曜日 朝小雨 後時風強シ C二四度

- 一、本日午前七時半ヨリ校庭ニ於テ軍事教練行ハル

- 一、池田武、橘川、早川、松樹先生軍事教練へ

五月十二日 金曜日 晴

- 一、加藤や、峰尾、宇留志先生海老名校ニ於ケル助教練成会ニ出席セラル

- 一、青年学校 矢部弥市先生ノ国民学校職員へノ紹介アリ

- 一、午後三時三十分ヨリ総務会行ハル

- 一、橘川、松樹先生軍事教練ノタメ渋谷校へ出向

- 一、来校者 初二男父兄二名 内務省ノ方三名

五月十三日 土曜日 晴

- 一、校長先生、加藤や、峰尾、宇留志先生海老名校ニ於ケル助教練成会ニ出席

セフル

- 一、青年学校 矢部先生ノ国民学校児童へノ紹介アリ
- 一、来校者

初二児童父兄一（傘ノ件ニツイテ）

五月十四日 日曜日 晴

- 一、文書交付

- 一、来校者 片野マサ工氏 男子青校生 植松勇夫外二名
- 一、来校者 片野マサ工氏 男子青校生 植松勇夫外二名

五月十五日 月曜日 晴

- 一、午前中青年学校男子部教練アリ

- 一、来校者 福本氏 片野マサ工氏

五月十六日 火曜日 晴

- 一、初六 理科研究ノ為蓼川ニ行カレル

- 一、午後ヨリ総務会行ハル

- 一、来校者 井上ラヂオ店主

備考 昭和十六年度同級会役員会（午後八時）ヨリアリ

五月十七日 水曜日 雨後曇 夜雨アリ

- 一、校長先生 御所見校ニ出向サル

- 一、鈴木先生、高二男、教科書取りニ行カル

五月十八日 木曜日 曇

一、高等科児童及井上、橘川、池田重、池田武、鈴木徳、比留川、西澤先生 水田作業ノタメ朝ヨリ出向カレル

一、水田ニ関係サレナイ先生ニテ馬鈴薯畑ノ手入レヲ行フ（於課後）

一、来校者 井上ラヂ才店主

五月十九日 金曜日 雨

一、校長先生 村常会ノタメ午后一時役場ニ出向サル

一、加藤ヤ、宇留志、峰尾先生 上溝国民学校ニ於ケル助教練成会ニ出席セラル

一、成城学園教授 澤田孝吉氏挨拶に

五月二十日 土曜日

一、校長先生 郡校長会ノタメ上溝国民学校ニ出校サル

一、加藤英、加藤ヤ、広田、宇留志、峰尾諸先生 上溝国民学校ニ於ケル助教練成会ニ出席セラル

一、来校者 紀校医 第二航空隊高野氏外二名 徳馬先生

一、午後六時三十五分 警戒警報発令

（この日と翌日は、宿直補助一名がつき、宿直は二名態勢）

五月二十一日 日曜日 雨後晴

一、左記文書受付

校長宛二 青年学校宛二 其ノ他二

一、来校者 田戸先生、飯田先生、山田先生、執務

備考 警戒警報発令中

五月二十二日 月曜日 晴

一、暗渠排水（上土棚）奉仕作業ヲナス

初六女、高一女 計一〇〇

一、警戒警報解除 午後一時三十分

一、午後二時半ヨリ宿直室ニ於テ総務会アリ

一、午後井戸ポンプノ修理ニ来ル（南林間）

表ト三館ノ二ツ

五月二十三日 火曜日 晴

一、校長先生 午後四時ヨリ紀校医ノ壮行会ニ出席セラル

一、午後二時半ヨリ職員会計及ヒ常会行ヘリ

一、来校者 橘川千作氏

五月二十四日 水曜日 晴

一、紀校医心召出発（深谷神社午前六時集合ニテ） 校長先生、井上先生外七

八名送ラル

一、池田シ、大塚先生及高二男 上土棚へ麦刈ノタメ朝ヨリ出向サレル

一、昭和十四年度尋卒生同級会役員三名 夜来校

五月二十五日 木曜日 曇

一、高座海軍工廠開庁式ニ校長先生参列セラル

一、三時半ヨリ職員常会開カル

高座海軍工廠

一九四三（昭和十八）年に、軍用機の生産を目的として、大和・座間・海老名・綾瀬市にまたがる台地上に設けられた軍需工場のこと。戦争が激しくなる と地下にトンネルを掘り航空機の生産を行っていました。主に働いていたのは台湾で募集された少年工でした。

五月二十六日 金曜日 晴

一、各部落 桑條剥皮作業アリ（午后）

一、来校者 第二航空隊高野氏、渋谷氏、比留川氏、

井上ラヂオ店主

五月二十七日 土曜日

一、海軍記念日ノ記念式挙行サル

一、曉天動員 六時半

一、小島勇先生ノ戦死ノ御知ニ依リ国民学校長、青年学校長、池田重、諸先生御悔ニ行カル

一、少年団男子部宿泊訓練行ハル

五月二十八日 日曜日 晴一時雨

一、左記文書受付

学校長宛二 青年学校長宛四 学校宛三 比留川笑子先生宛一 山田八

ツ先生宛一 加藤松江先生宛一 青年団長宛一

一、来校者 比留川先生 鈴木も先生

一、峰尾タツ子先生自転車盗難ノ件ニ就キ第二相空西澤専任伍長外一名来校ス

五月二十九日 月曜日 曇

一、校長先生 地方事務所へ出向サレル

一、午後三時ヨリ総務会行ハル

一、来校者 小島良助氏（子息勇氏ニ関シテ）

第二相空下士官及兵（マイク返却ノタメ）

五月三十日 火曜日 晴

一、二時半ヨリ手旗信号打合会行ハル

一、初六男女 上土棚へ暗渠排水作業ニ行ク

一、来校者

第二航空隊ヨリ渡辺氏外一名 拡声器修繕ノタメ 新倉氏（応召挨拶）

五月三十一日 水曜日 晴

一、故高島忠夫兵曹長ノ弔問使来宅 海軍大臣代理 本橋政吉大佐殿 参列（校長）

一、午後五時ヨリ高座郡教育会表彰者ノ伝達式ヲ行フ

二十箇年勤続 井上先生

三ヶ年精勤 松樹、田戸マサヤ先生

高座郡教育会

一八八八（明治二十一年）年、神奈川県高座郡の教員や教育関係者によって結成された研究団体。広範な地域であるため日常的な活動は、南部・中部・北部の三地区に分かれて行われていました。綾瀬は近隣の六校と共に中部に属していました。

六月 一日 木曜日 晴

- 一、桑條剥皮競技会河原口ニアリ高二児童二名出席 池田武先生引率
- 一、放課後 橘川先生校長先生 オルガンノ修理ヲ行ハル

六月 二日 金曜日 晴

- 一、各部落毎ニ桑條剥皮作業行ハル

六月 三日 土曜日 晴

- 一、女子少年団宿泊訓練行ハル
- 一、来校者 峰尾助役 初六転入児童父兄

六月 四日 日曜日 午前曇 風強 夕刻雨

- 一、本日午後昭和十五年度尋常科卒業生同級会行ハル
- 一、来校者 前石井校長、広田清一、田戸マサヤ先生 池田重 池田武先生

六月 五日 月曜日 晴

- 一、故新倉正夫英霊出迎ニ深谷部落児童諸先生行カレル(新長後着ニテ)
- 一、来校者 松本善一氏(応召挨拶) 児童父兄一

六月 六日 火曜日 晴

- 一、水稿(稲力?) 植付
- 校長先生 井上先生 橘川先生 池田重先生 鈴木徳治郎先生 比留川先生 高一男、一組、高二女行カル
- 一、来校者 綱島勇氏 鈴木敏雄氏(応召挨拶)

六月 七日 水曜日 晴

- 一、体育主任常会(座間校)ニ池田武先生出向サレル
- 一、中部校長常会(有馬校)ニ校長先生出向サレル
- 一、来校者 紀あり氏 寺田女医

六月 八日 木曜日 晴

- 一、午後一時ヨリ初五以上草刈ヲナス
- 一、職員常会行ハル
- 一、来校者 金子先生

六月 九日 金曜日 晴

- 一、中部体育主任会(於裁縫室 午前九時ヨリ午後三時半迄)行ハル
- 一、海軍用地豆蒔キ(高等科 午後ヨリ)
- 一、来校者 金子先生 中部体育主任数人

六月 十日 土曜日 晴

- 一、本日午後一時ヨリ校庭ニ於テ中部会雑刀講習会開催セラル
- 講師 御所見高女 斎藤先生 会員六十二名
- 一、午後職員打合会アリ

六月十一日 日曜日 晴 二十五度

- 一、来校者 近藤盟氏 産組ノ見上氏 榛葉先生(飯田先生ニ御用アリテ)